

東北ブロッククラブネットワークアクション 2018 開催報告

日 時： [1日目] 平成30年11月24日(土) 13:00 ~ 17:30
[2日目] 平成30年11月25日(日) 9:00 ~ 12:00

会 場： 土手町コミュニティパーク (青森県弘前市)

内 容： テーマ： 「総合型地域スポーツクラブからの地域リノベーション (変革)」

[1日目]

1. 共通プログラム「障がい者スポーツの普及と総合型地域スポーツクラブの連携」
2. 独自プログラム「どうする人口減少！～クラブとして地域のために何に取り組むのか～
情報提供：「人口減少が地域の暮らしに与える影響」
グループディスカッション：「地域は将来どうなっていくのか？」

[2日目]

1. 独自プログラム「クラブからの地域リノベーション (変革)」
事例発表：スポーツによって地域を活性化した取り組みを紹介
グループディスカッション：「地域課題×スポーツ」を考える。

参加者:145名

■共通プログラム 「障がい者スポーツの普及と総合型地域スポーツクラブの連携」

第2期スポーツ基本計画における障害者スポーツの振興等に係る具体的施策では、「国は、地方公共団体等と連携し、全ての特別支援学校が、在校生・卒業生・地域住民がスポーツに親しめる地域の障害者スポーツの拠点となることを支援することにより、身近な地域で障害者がスポーツに親しむ環境を整備する」と記載があり、特別支援学校を障がい者スポーツの拠点にしていくことが位置づけられました。

弘前市では、弘前大学を中心として、平成30年度スポーツ庁委託事業「Special プロジェクト2020」

をはじめとする、特別支援学校等を活用した地域における障がい者スポーツの拠点づくり事業を実施しており、その取り組みについて紹介しました。

【楽しいスポーツ】と【ほんもののスポーツ】を区分し、スポーツの裾野を広げたことで、子どもから大人まで、障がい者が参画しやすい環境を構築しているのが特徴的でした。

実際に教室に参加した生徒からは、【楽しいスポーツ】を経験したことで、【ほんもののスポーツ】に興味を持ち、今ではスポーツ特有の【勝負】にこだわるほど、熱中しているとの感想をいただきました。



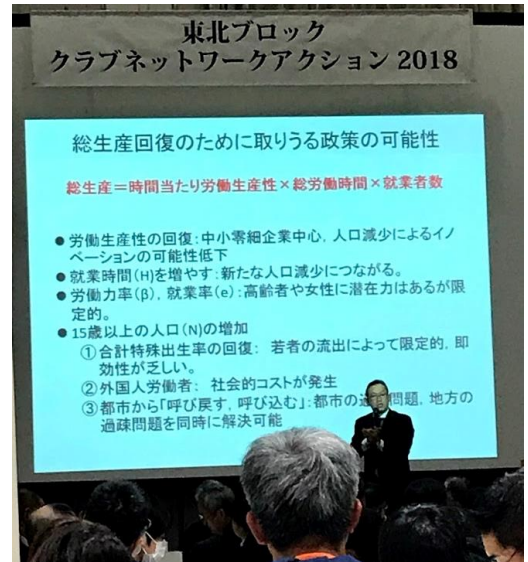
弘前大学教育学部附属特別支援学校
中嶋 実樹 氏

■ 独自プログラム「どうする人口減少！～クラブとして地域のために何に取り組むのか～」

情報提供：「人口減少が地域の暮らしに与える影響」

東北6県の将来推計人口、人口減少のプロセス等について問題提起いただいた後、総合型クラブが人口減少に歯止めをかけるためにできることについて説明いただきました。

子ども時代の地域の祭りやイベントへの参加等の経験は、その地域での幸福感や満足感を得ることができ、地方から都心に移住した後、地方に戻るという選択肢を得られやすいというデータもあることから、クラブが、地域住民に対し、幸福感や満足感を得られるような取り組みを行うことが大切であるという内容が印象的でした。



弘前大学 李 永俊 氏

■ グループディスカッション「地域は将来どうなっていくのか？」

李氏の情報提供をもとに、「私たちのスポーツクラブが実現したい地域・クラブビジョンは」というテーマでグループディスカッションを行いました。

ファシリテーターの土井氏は、以下の手法を用いて、グループディスカッションを取り進めました。

☆ステップ1：ワールドカフェ形式

テーマ①自分の住む地域の課題は？

テーマ②自分のクラブが抱える悩みは？

テーマ③どのような地域・クラブを作りたいか？

☆ステップ2：マグネットテーブル

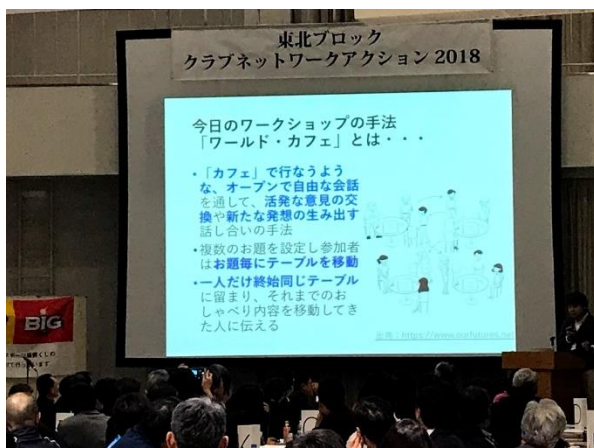
興味がある内容、テーマ、話してみたいことについて、似たような仲間を探してグループを作っていく。

☆ステップ3：グループごとのテーマ発表(どんなテーマに興味があるグループか伝える)



弘前大学 土井 良浩 氏

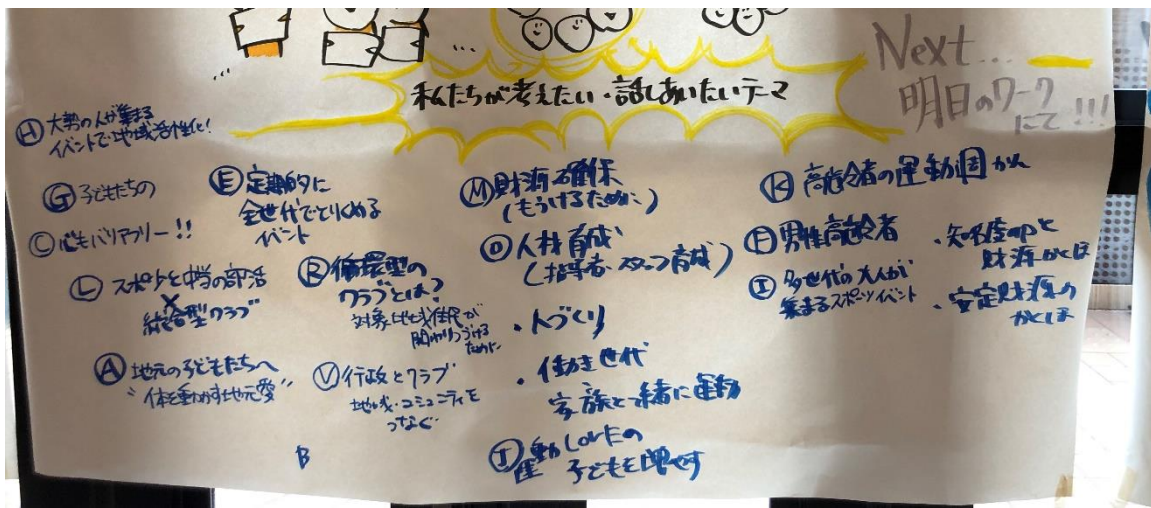
また、全員で本研修会の内容を共有するため、グラフィックレコーディングを実施しました。



ステップ 1



ステップ 2



ステップ2を通じて各グループテーマを作成

グラフィックデザイナー@佐々木 絵理 氏

■事例発表「クラブからの地域リノベーション（変革）」

「スポーツによって地域を活性化した取り組みを紹介」

1日目のグループディスカッションを通して、テーマごとのグループが作成されました。2日目は、さらにそのグループで具体的にどのような取り組みを行っていくかイメージを持っていただくため、①公益財団法人日本スポーツ協会、②向陽台総合型地域スポーツ・文化クラブ（宮城県）、③一般社団法人さんのヘスポーツクラブ Enjoy（青森県）より、総合型クラブがスポーツを核として地域を活性化した取り組みについて事例発表を行いました。

①公益財団法人日本スポーツ協会

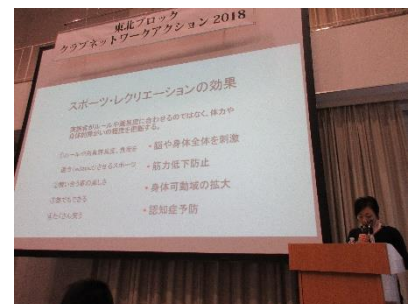
- ・総合型クラブ公式メールマガジンで発信している「地域課題の解決に取り組んでいるクラブ」の事例（健康増進、介護予防、障がい者スポーツ、学校部活動、子育て支援）を紹介しました。

②向陽台総合型地域スポーツ・文化クラブ（宮城県）

- ・地域コミュニティを活性化させるために、現在抱えている課題を解決した取り組みとして、町内会や社会福祉協議会等に声をかけ、ネットワーク会議を開催し、地域課題を探りながら、その解決に向けた横断的取り組みについて紹介しました。

③一般社団法人さんのヘスポーツクラブ Enjoy（青森県）

- ・高齢化社会という課題を解決した取り組みとして、介護予防事業を通じて、認知症予防等をはじめ、高齢者の居場所づくりを実施している事例を紹介しました。



■グループディスカッション「地域課題×スポーツ」を考える。

テーマごとのグループにおいて、具体的にどのような取り組みを行っていくのか、事例発表を踏まえ、グループディスカッションを行いました。

また、1日目と同様、ファシリテーターの土井氏が、以下の手法を用いて、グループディスカッションを取り進めました。

☆ステップ1：各自でアイディアだし(ブレインストーミング)

☆ステップ2：グループ内でアイディアを絞り込む(3つ)

☆ステップ3：アイディアの具現化に向けて具体的な取り組みを作成

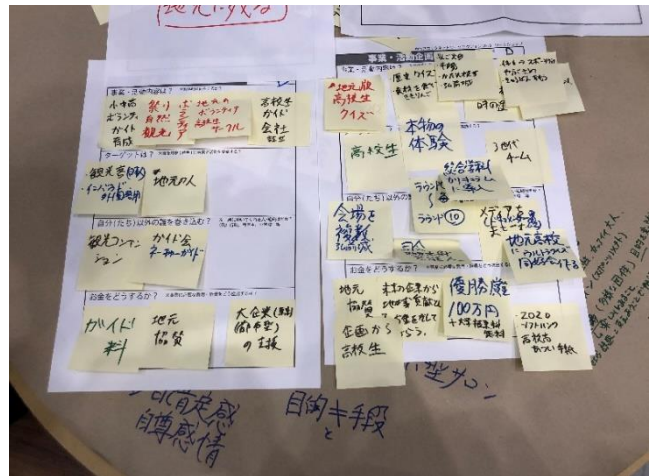
(事業内容、ターゲット、資金等)

☆ステップ4：他グループのテーブルを回り情報共有

☆ステップ5：各自でクラブ宣言シートを作成(研修会終了後に実行すること)



ステップ1



ステップ2~4



ステップ5

■まとめ

2日間のプログラムを通して、参加者同士でディスカッションをする時間を多く設けられたことで、たくさんのアイデアが出たことは、とてもよかったと思います。

これからのクラブは会員を集めることだけではなく、地域課題の解決や地域ニーズに応じていくことが求められ、それらに応えられるクラブが、地域に根づいていくのではないかと思います。

プログラムの最後に宣言した取り組みを、各地域でいかに実行し実現させていくかが大切であり、それらの取り組みを通じて、各クラブが地域から求められる存在になっていくことを願っております。

今回のようなプログラムを通じて、具体的な行動を起こす人・クラブを増やすことが重要だと思いますので、今後も、参加者の方々がネットワークアクションへの参加をきっかけに、具体的な行動を起こせるような内容を創っていきます。

(東北ブロッククラブネットワークアクション実行委員長 高橋 三郎)

※本ネットワークアクションは、東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。

